事務事業のスクラップ・リニューアル方針

I 目的

- ・限られた財源の下、より効果的かつ効率的な自治体運営を推進する。
- ・少子高齢化や社会情勢の変化に伴う多様化・高度化する市民ニーズに的確に対応する。
- 真に必要とされる市民サービスへの重点化を図る。
- ・事業の現状把握、評価を通じて、廃止・縮小すべき事業や改善すべき事業を明らかにする(委託、補助金、負担金、イベント、会議等)。

Ⅱ ポイント

- ・新たな事業を増やすのではなく、「削る」「減らす」「変える」など、事業の改善や磨き上げ による取り組みをバランスよく進める。
- 事業の成果や課題を可視化・共有し、事業の精度や熟度を高める。

【対象事業】

- ① 市民ニーズ・時代との乖離がある事務事業(必要性)
 - 市民からの利用実績が少ない。(例:過去3年間で利用件数が減少傾向等)
 - 新しい課題や市民ニーズに合っていない。
 - 少子高齢化、人口減少、地域経済の変化に適応していない。
 - DXや民間化の流れと逆行している。
- ② 業務の目的や成果が不明確、または形骸化している事務事業(有効性)
 - 目的が不明瞭、もしくは現状の業務内容と乖離している。
 - 過去の経緯だけで継続されており、現状の課題と関連が薄い。
 - 評価しづらく、効果が見えにくい。
- ③ 実施コストが高いが、効果が見合っていない事務事業(効率性)
 - 職員の工数や予算を多く投じているが、アウトカム(成果)が限定的
 - 類似業務が他部局でも行われている。(重複)
- ④ 代替手段が考えられる事務事業(代替手段)
 - 民間事業者等に委託・公民連携できる可能性がある。
 - · DXにより改善・自動化が可能なもの。
- ⑤ 長期間見直されていない事務事業(発展性)
 - · 過去 10 年以上、実施目的や内容が見直されていない。
 - 「慣例的」「前例踏襲」で実施されている。
 - 行政手続の簡素化が可能なもの。
- ⑥ 持続可能性の観点から再検討が必要な事務事業(優先度)
 - ・ 現在(今後)の人員・予算体制では継続が難しいと見込まれるもの。
 - 地域主体や市民協働へ移行可能な業務。

Ⅲ スクラップ・リニューアルのスケジュール (概略)

①事務事業評価(5月~6月)

事業成果の達成度評価

有効性の検証



令和7年度 全庁あげて推進

②スクラップ・リニューアル方針に基づく 事務事業の徹底的な見直し

(各課スクラップ・リニューアルしたい事業の ピックアップ、具体策検討、調書作成)

必要性 有効性 効率性 代替手段 発展性など 総合的な検証





④スクラップ・リニューアルの具現化(6月~8月)

・課題共有、見直しの具体策の協議・・計画、予算に反映準備

各課検討・外部委員意見聴取

削る 廃止・やめる

減らす 統合・簡略化・縮小

変える 代替・委託・民間移行・自動化・DX



⑤経営資源の配分 (10月~2月) 予算編成·執行体制協議

ヒト 組織体制・人材確保

モ/ ツール (例規・ICT) ・設備機器・権限

財源 予算編成 予算フレーム 中長期財政計画・基金